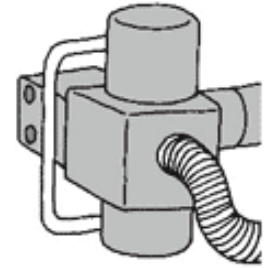


# 一般撮影部門について



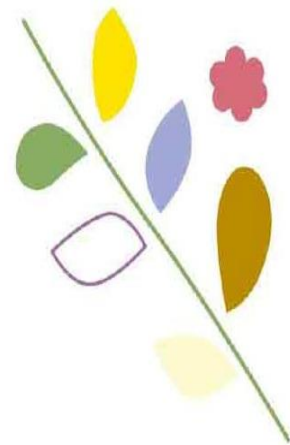


# 一般撮影とは？



- 一般撮影とはX線という放射線を人体に照射し体内を通過してきたX線を画像化する検査です  
体内を通過したX線から病変や骨折の有無を調べられます
- 撮影する部位によって立つ、座る、寝るなど体位がそれぞれ異なります
- CTやMRI検査などに比べて簡便かつ迅速に画像を提供できるので撮影頻度の高い検査です

# 撮影装置



- 当院の一般撮影室は3部屋あります

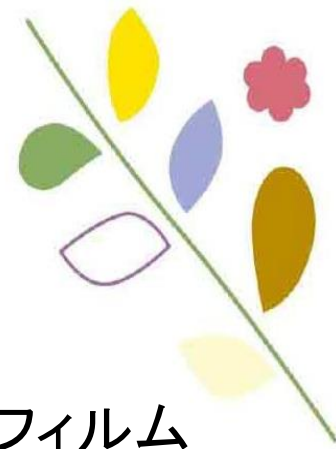


一般撮影室1 コニカミノルタ社製



一般撮影室3 GE社製

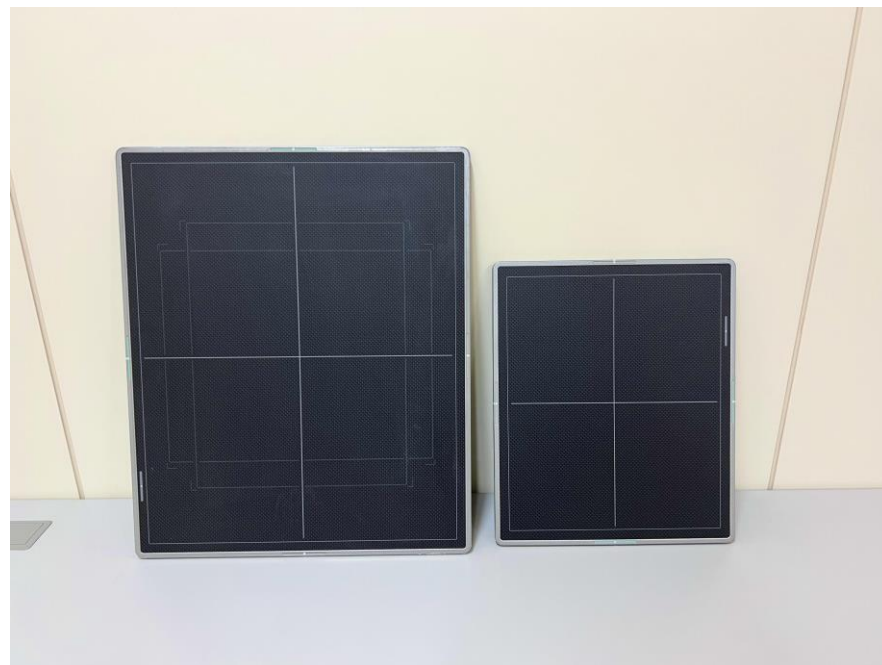
# ポータブル撮影



- 手術室や病室で動けない患者さんの撮影を行います
- 背中の下にFPD(フラットパネルディテクター)と呼ばれるフィルムを入れて撮影を行います



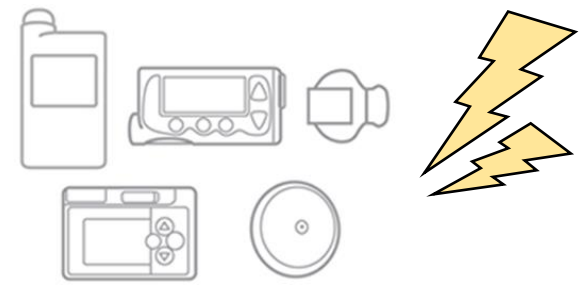
ポータブル撮影機



FPD(フラットパネルディテクター)



# 検査の注意事項(1)

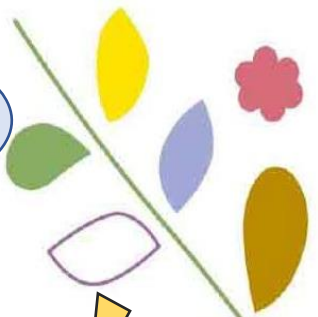


- ご本人確認のため撮影時にお名前、生年月日を確認させていただきますがご協力ください
- お子様を撮影の際には、同行された方にお付き添いをお願いする場合がありますのでご協力ください
- 入れ歯・ヘアピン等の金属類、湿布・使い捨てカイロ、リブレセンサーなどの医療機器が撮影する部位にあると診断の妨げになりますので、撮影時に外していただくようお願いいたします
- 検査内容に応じて、立って行う撮影や座って行う撮影、寝台に横になって行う撮影があります。また、呼吸を止めていただく場合もあります
- 妊娠またはその可能性のある方は必ず検査前にスタッフにご相談ください

# 再撮影となる例



大丈夫  
ですか？



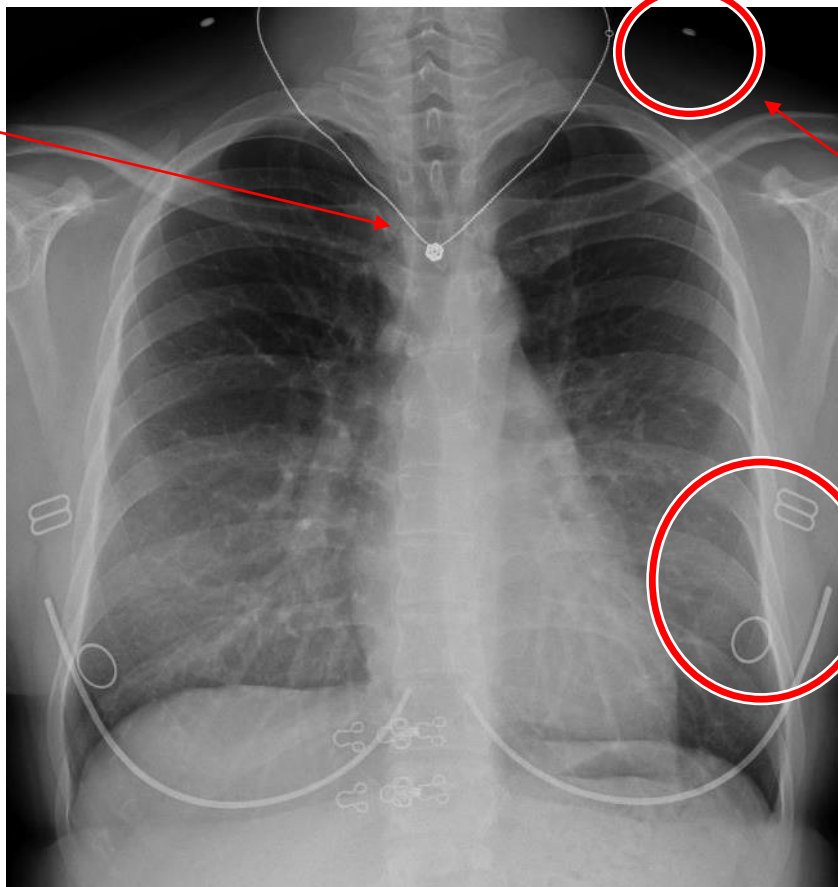
ネックレス



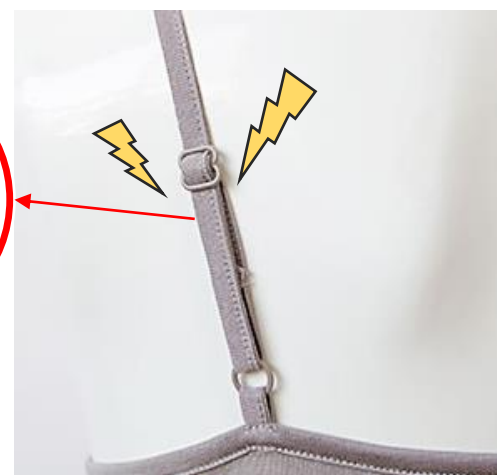
湿布/カイロ製品



ボタン類



磁気エレキバン



下着/アジャスター

**※金属、プラスチック類を身に着けたまま撮影した場合には再撮影になります  
着替えの際に、再度ご確認ください！！**



# インスリンポンプ及び 持続グルコースモニタリング装置について

当院では右図のようなポスターを掲示しています

インスリンポンプ及び持続グルコースモニタリング装置されている患者様は検査前にお申し出下さいますようお願いいたします

装着したままでX線検査を行いますと、一部製品につきましては誤作動、故障の原因となる可能性があります

A poster with a light blue background and a white border. At the top, it says 'X線・R I・CT検査を受ける患者様へ大切なお願い' in red. Below that, it lists 'インスリンポンプ及びCGM・FGM (持続グルコース測定) SCS (植え込み型疼痛緩和用装置) DBS (深部脳刺激療法)' in blue. A red warning states 'をご使用中の患者さまは 検査前にスタッフまでお申し出下さい。' and '装着したまま検査を実施した場合、上記機器に不具合が発生する可能性があります。' At the bottom, there are images of various medical devices: an insulin pump on a person's abdomen, a CGM sensor on a person's abdomen, a SCS device on a person's back, a DBS device on a person's back, a smartphone, a remote control, a blue anatomical diagram of a spine, and a Precision Montage MRI device.

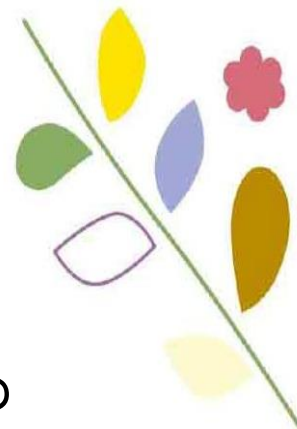
X線・R I・CT検査を受ける患者様  
へ大切なお願い

インスリンポンプ及び  
CGM・FGM (持続グルコース測定)  
SCS (植え込み型疼痛緩和用装置)  
DBS (深部脳刺激療法)

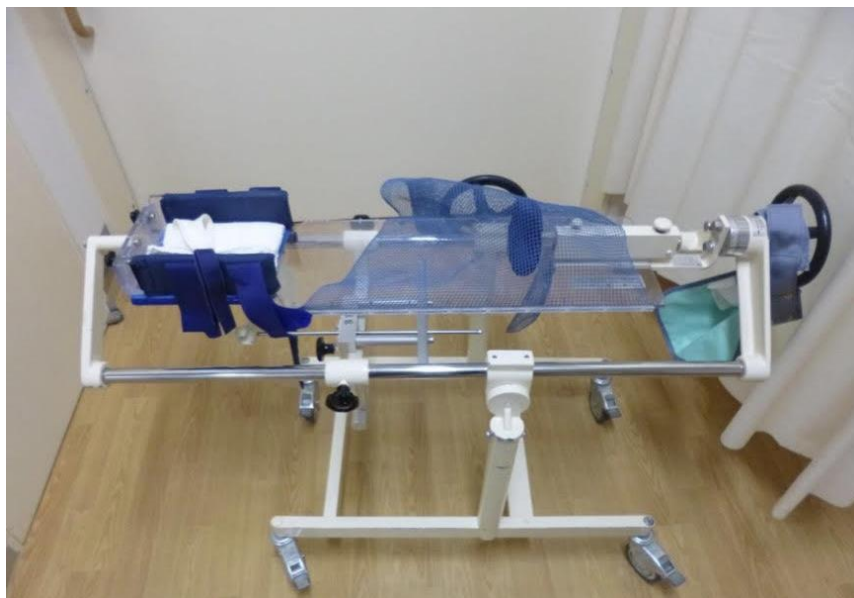
をご使用中の患者さまは 検査前に  
スタッフまでお申し出下さい。

装着したまま検査を実施した場合、上記機器に  
不具合が発生する可能性があります。

# 注意事項(2)



- 2歳以下のお子様の撮影では動きによる再撮影を少なくするためにファンテクサー(写真のような補助具)という補助具を使用して、安全に撮影させていただく場合がありますのでご協力ください



安心安全  
だよ♪



撮影補助具:ファンテクサー



# 検査内容





# 胸部の撮影



- 肺の中に異常が無いのか、心臓の大きさや形を診ることができます
- 正面像だけでは骨や横隔膜に隠れてしまう部分が多いため、側面像も撮影することがあります

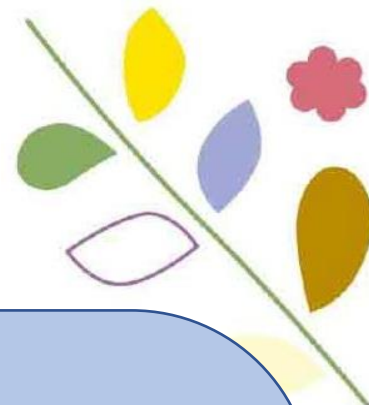


正面像



側面像

# 腹部の撮影



- 腹腔内(おなかの中)の異常の有無を調べることができます
- 腹部臓器の状態やガスの状態、結石などがわかります
- 立位または臥位にて撮影を行います





# 骨の撮影



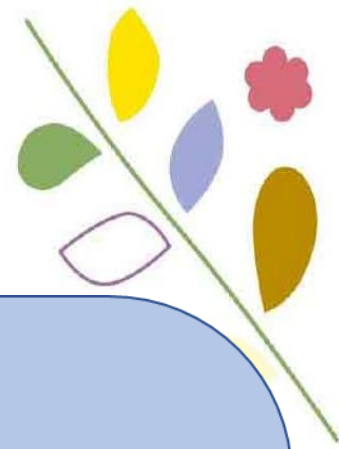
- 背骨(脊椎) や四肢(手足膝)などを撮影することで、骨折や炎症の有無、関節の状態を把握できます



膝関節

頸椎(首の骨)

# パノラマ(歯科領域)撮影



- 歯を含んだ顎の骨全体を撮影する検査です
- 装置が顔の周りをまわりながら1枚の画像に全ての歯を撮影できます
- 歯全体の様子や顎の関節の状態を観察できます

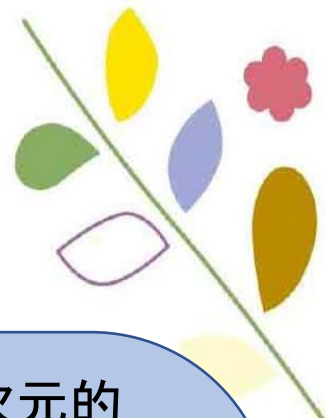


パノラマ撮影画像



パノラマ/歯科用CT撮影装置

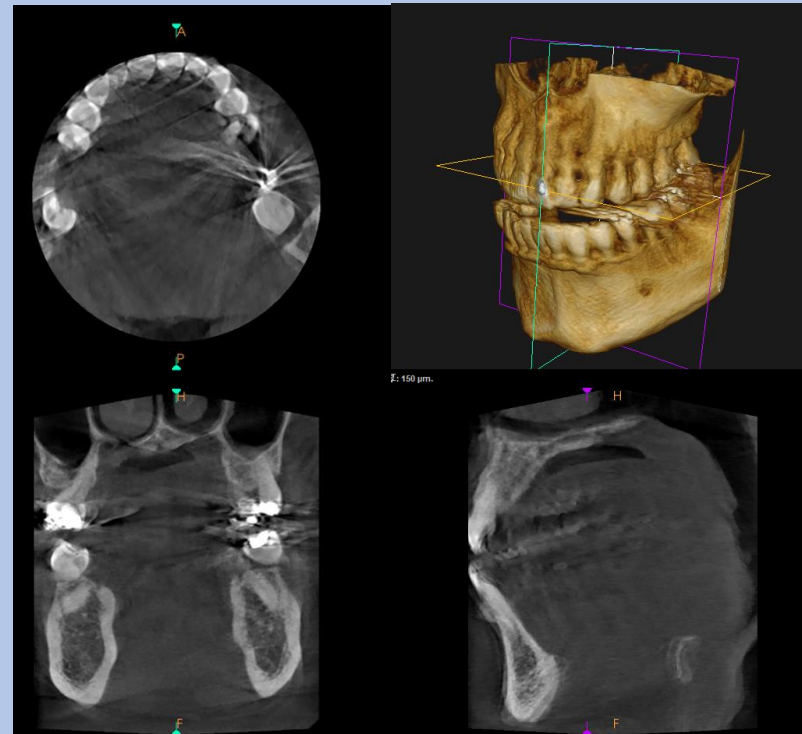
# 歯科用CT(コーンビームCT)



- 歯科用CTとは2次元のレントゲン撮影では見えづらい場所を3次的に画像化できる検査です
- インプラントの治療や親知らずの位置や角度を細かく見ることができます



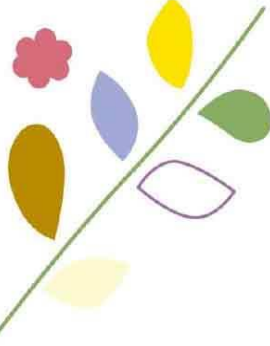
パノラマ/歯科用CT撮影装置  
TROPHY社製



実際の撮影画像

# 一般撮影の被ばくについて





# 被ばくのQ&A(1)



• Q. 被ばくすると身体に障害は出るの？

→ A. 一般撮影検査による医療被ばくは障害が出ることはありません  
人体への放射線障害は、かなりの線量を一度に浴びなければ問題は  
ありません

• Q. 何回もレントゲンを撮っても大丈夫なの？

→ A. 診断に用いる線量で癌が増えたという事実は確認されていません  
病気の診断や経過をみるために検査が複数回になったとしても、  
体に影響の出る線量には到達しません  
それよりも定期的に検査を受け、適切な診断を受ける方がはるかに  
有益です





# 被ばくのQ&A(2)



- Q. 妊娠中と知らずに放射線検査を受けてしまいました  
胎児に影響はないのか？



→A. 妊娠中の被ばくでわかっていることは、**被ばくした量と被ばく時期が大切**であるということです

最も放射線の影響を受けやすいのは受精後10日～10週目と考えられていますが、医学上では、奇形発生率の増加はないと言われています

- Q. 授乳中にレントゲンを撮っても大丈夫なのか？

→A. レントゲンやCTで使用される放射線は、母乳には**影響を与えない**ので、安心して検査を受けて下さい